

専念寺通信

1月号 (NO.149)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



あけましておめでとうございます。皆さまお健やかに新年をおむかえのことと思えます。

法然上人の次の言葉を年の初めにご紹介させていただきます。

一心に専ら弥陀の名号を念じ、行住坐臥に時節の久遠を問はず、念々に捨てざるもの、これを正定の業と名く。彼の仏の願に順ずるが故に。

南無阿弥陀仏と唱えるためには、場所も自身の状態も問わない。歩いているときでも、寺へ参詣できなくとも、坐していても、たとえ身体を横たえていても、ただ一心に南無阿弥陀仏の名号を念ずればよいのだ、と法然上人は教えています。

煩惱があればその煩惱を抱えたままで、念仏を唱えることを捨てないで生きること、これこそが、仏が選定して本願行とされた正定（しょうじょう）の業（ごう）だとしたのです。専ら（もっぱら）一心（いっしん）に唱えること。私どもの寺、一心山・専念寺の名は、この法然上人の言葉に由来しています。



新年号の写真は元旦の本堂です。松と千両と水仙を供花とし、鏡餅をお供えしました。本尊裏の誕生仏の前にも葉つきみかんを載せた鏡餅をお供えしてあります。

右下の写真は、毎年恒例の専念寺の银杏入りお守りです。昨年は银杏の数が少なかったため、60名様分を作りました。年末年始にお参りくださった方に差し上げています。

東日本大震災の復興はまだまだ先が見えませんが、私たちにできることを、機会をみつけ、あきらめずに行っていきたいと思いません。震災で苦しんでいる人たちがいるのを忘れず、原子力発電所の事故のためふるさとに帰れない人が大勢（32万人）いることを忘れずに、浄土宗の教えの中心である「万人救済」のために、思慮深く過ごしていければ良いと思います。

本年もどうぞよろしくお願いたします。



平成25年1月1日 大黒